

## インターバンクの声（2017年4月25日）

フランス大統領選第1回投票で、親欧州連合(EU)中道系のマクロン候補と極右国民戦線のルペン候補が決選投票に進んだことで、最悪の組み合わせでの決選投票になる不安が解消し、欧州政治の先行き懸念が後退した。

この結果を受けて、週明けのアジア市場で1.08ドル台に上昇していたユーロの水準を欧州勢がどのように判断するのか注目されたが、意外にもロンドン、ニューヨーク市場ともに淡白な反応だった。

決選投票がマクロン候補とルペン候補との組み合わせになれば、マクロン候補が圧倒的に有利になるとの見方が大勢だったはずだが、国内外の報道によれば第1回投票でフィヨン候補とメランション候補に投票した人たちの票が事前に想定されたように必ずしもマクロン候補に流れるとは限らないらしい。

そうなる当然、ルペン候補が勝利する可能性も残っているわけで、こうした背景が欧州政治の先行き懸念が完全に消えていないとの見方に繋がったことでユーロの続伸が妨げられた部分もあったようだ。

1.10ドル辺りまでは買い続けて良いのではと思っていたユーロだが、5月7日の決選投票日まで動きづらくなる気配が強くなったとあって、木曜日に予定されている欧州中央銀行(ECB)理事会後のドラギ総裁の会見がポジション調整のきっかけになるかも知れない。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。